

【SG1】データ同化の数理と応用(講義型SG)

理論モデルとデータをつなぐデータサイエンス

データ同化は、現象の数理モデルのシミュレーション結果に本質的に含まれる予測誤差を観測データによって補正することで、予測力を向上させる手法です。本SGではデータ同化の基礎と応用について講義と実習およびその後チュートリアルや勉強会参加を軸とした年間の活動を行います。

実施概要

登録「データ同化A」の出席者は自動的に登録としますが、それ以外でも希望者(後期に「データ同化B」を受講予定など理由任意)は登録可能です。

講義 データ同化A(前期)火曜3限目
データ同化B(後期)火曜3限目

理研・京大データ同化研究会

8/29 理化学研究所計算科学研究センター@神戸
冬頃? 京都大学大学院理学研究科@京都

メリット 単位を認定(前期2単位・後期2単位)

理研・京大データ同化研究会への派遣
理研R-CCSの研究活動を知る。

令和5年度前期 専攻横断型講義 (データ同化A)

2023年4/11(火)より
毎週火曜日 3限 (13:00~14:30)

京都大学理学研究科 6号館 303号室

この講義では、データ同化の理論と応用を学び、実際の問題に適用するために必要な実践的な基礎技術を習得することを目指す。データ同化は、数値計算によるシミュレーションと実測データとをつなぐ統計数理の一分野である。シミュレーションと現実世界を同期させるカオス同期の問題としても知られるほか、限られたデータ(結果)から原因を探る逆問題とも関連が深い。

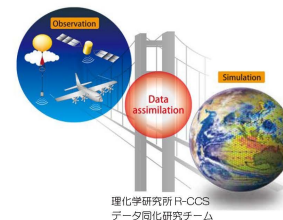
データ同化は学際科学であり、力学系、決定論のカオス、確率過程、実測データ、統計数理、最適制御、計算科学など、幅広い分野の総合理解に基づく。数値天気予報ではシミュレーションモデルと同様な根源的役割を果たすほか、様々な分野への応用可能性が広がっている。



講師:

三好 建正
Takemasa MIYOSHI

理化学研究所
計算科学研究センター
データ同化研究チーム
チームリーダー



理化学研究所 R-CCS
データ同化研究チーム

●本講義は、理学研究科が推進する「数理を基礎として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム(MACS教育プログラム)」の一環として、分野にかかわらず興味のある学生向けに開講されています。

●本講義に続いて、後期にはより進んだ内容の「データ同化B」が開講予定です。「データ同化B」は「データ同化A」の内容を前提としますので、「データ同化B」の履修希望者は「データ同化A」を履修・聴講しておいてください。

【注意】本講義を修了に必要な単位として認めるかについては、専攻によって扱いが異なりますので、詳しくは各所属専攻に問い合わせください。



MACS教育プログラム
数理を基礎として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム

macs京大 検索



担当教員: 坂上貴之(数学・数理解析専攻) 宮崎真一(地球惑星科学専攻)

三好建正(理化学研究所) 大塚成徳(理化学研究所) 大石俊(理化学研究所)

【講義型SG】データ同化の数理と応用：

理論モデルとデータをつなぐデータサイエンス



理研京大データ同化ワークショップ(2023/2/15)
神戸開催

次回は
8/29開催！

時間	講演者	内容
13:00-13:30	-	受付
13:30-13:40	三好 建正 (理化学研究所)	趣旨説明
13:40-14:10	小林 勇毅 (京都大学)	予報誤差と観測誤差の相関を考慮したアンサンブルカルマンフィルター
14:10-14:40	竹田 航太 (京都大学・理化学研究所)	トポロジカルデータ同化理論の構築について
14:40-14:50	-	休憩
14:50-15:20	前島 康光 (理化学研究所)	領域気象モデルを用いた局地豪雨の制御シミュレーション実験
15:20-15:50	藤田 駿 (京都大学)	浅水方程式系に対するLETKFの適用について
15:50-16:10	三好 建正 (理化学研究所)	総合討論